

生乳の地域別の需要の長期見通し 生乳の地域別の生産数量の目標

生乳の地域別の需要の長期見通し

(1) 飲用向け需要量 (地域別全国計)

単位：万トン

地域名	地域に属する都道府県名	現状(H20年度)	見通し(H32年度)
北海道	北海道	22.1	16.6～17.4
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	29.2	27.9～29.3
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	187.1	154.6～162.3
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	15.4	16.3～17.1
東海	岐阜県、愛知県、三重県	36.4	35.7～37.5
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	67.3	63.7～66.9
中国 四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	40.6	34.7～36.4
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	43.5	44.7～46.9
全国計		441	404

(2) 乳製品向け需要量 (全国計) 390万t

(3) 自家消費等需要量 (全国計) 6万t

(4) 需要計 800万t

生乳の地域別生産数量の目標

単位：万トン

地域名	地域に属する都道府県名	現状(H20年度)	見通し(H32年度)
北海道	北海道	390.9	402.4～444.7
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	67.8	58.8～65.0
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	144.1	131.2～145.0
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	12.1	9.6～10.6
東海	岐阜県、愛知県、三重県	32.9	28.6～31.6
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	23.2	18.4～20.3
中国 四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	48.5	40.6～44.9
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	74.9	70.1～77.5
全国計		795	800

牛肉の生産数量の目標

乳牛及び肉用牛の地域別の飼養頭数の目標

牛肉の生産数量の目標

牛肉生産量（全国計） 52万t

乳牛及び肉用牛の地域別の飼養頭数の目標

単位：万頭

地域名	地域に属する都道府県名	乳牛		肉用牛	
		現状 H20年度	目標 H32年度	現状 H20年度	目標 H32年度
北海道	北海道	82.3	74.1 ～81.9	53.5	53.1 ～58.7
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	12.5	9.2 ～10.2	41.7	39.6 ～43.8
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	23.6	18.6 ～20.6	36.4	34.6 ～38.2
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県	1.9	1.3 ～1.4	2.4	2.3 ～2.5
東海	岐阜県、愛知県、三重県	4.9	3.7 ～4.1	12.3	11.7 ～12.9
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	3.7	2.6 ～2.9	9.3	8.8 ～9.7
中国 四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	8.1	5.8 ～6.4	21.1	20.1 ～22.2
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	13.0	10.2 ～11.3	115.6	111.3 ～123.1
全国計		150	132	292	296



ホルスタイン種

写真提供：

(社)全国肉用牛振興基金協会



ジャージー種

写真提供：

(社)中央畜産会



黒毛和種



無角和種



ブラウンスイス種

写真提供：

(社)中央畜産会



日本短角種



褐毛和種

写真提供：

(社)全国肉用牛振興基金協会

近代的な酪農経営の基本的指標

	1	2	3	4	5	6	7
立地条件	土地条件の制約が小さい地域 (主として北海道)			土地条件の制約が大きい地域 (主として都府県)			全国
土地条件	牧草地主体	牧草地主体	畑主体	寒冷地・ 中山間	暖地	暖地	—
土地条件	牧草地主体	牧草地主体	畑主体	畑 又は水田	畑 又は水田	畑 又は水田	—
経営形態	家族	家族	法人	家族	家族	法人	家族 (チーズ加工・販売)
経産牛頭数	60頭	80頭	250頭	40頭	80頭	200頭	40頭
飼養方式	繋ぎ パイクライン	繋ぎ パイクライン	フリーストール パーラー ほ乳機・ット	繋ぎ パイクライン	繋ぎ パイクライン	フリーストール パーラー	繋ぎ パイクライン
作業の外部化	ヘルパー	ヘルパー	公共牧場	ヘルパー	公共牧場 ヘルパー	公共牧場	ヘルパー
給与方式	分離給与	TMR エコフィード	TMR エコフィード	分離給与 稲WCS	TMR エコフィード 稲WCS	TMR エコフィード 稲WCS	分離給与
飼料作物の 作付体系	苜蓿主体	混播主体	混播 トウモロコシ	混播 トウモロコシ	トウモロコシ イタリアン	トウモロコシ イタリアン	混播 トウモロコシ
放牧利用	48ha	—	—	—	—	—	3ha
飼料生産の 外部化	—	コントラクター TMRセンター	—	コントラクター	コントラクター TMRセンター	—	コントラクター
飼料作物 作付面積	64ha	63ha	180ha	15ha	12ha	27ha	18ha
乳量	8,100kg	8,500kg	9,200kg	8,400kg	8,600kg	9,300kg	8,200kg
更新年次	5.0	4.5	4.0	4.2	4.0	4.0	5.0
10a 当たり 生産量 (飼料作物)	苜蓿 4,600kg	混播 4,100kg	混播 4,100kg トウモロコシ 6,000kg	混播 4,300kg トウモロコシ 5,400kg	トウモロコシ 5,700kg イタリアン 6,300kg	トウモロコシ 5,700kg イタリアン 6,300kg	混播 4,200kg トウモロコシ 5,700kg
経営内自給率	75%	70%	70%	45%	40%	35%	55%
粗飼料給与率	75%	70%	70%	50%	50%	50%	60%



(左) フリーストール



(右) ミルキングパーラー

近代的な肉用牛（繁殖）経営の基本的指標①

	1	2	3	4	5
立地条件	土地条件の制約が小さい地域 (主として北海道)		土地条件の制約が大きい地域 (主として都府県)		
土地条件	畑又は水田	畑主体	水田	水田	畑又は水田
経営形態	家族・複合	家族・専業	家族・複合	家族・複合	家族・専業
繁殖雌牛頭数	50頭	100頭	10頭	30頭	80頭
飼養方式	牛房群飼 連動スタンション	牛房群飼 連動スタンション ほ乳母 [®] ット	繋ぎ CBS (CS)	牛房群飼 連動スタンション	牛房群飼 連動スタンション 早期離乳
作業の外部化	—	—	CBS (CS)	—	—
給与方式	分離給与	分離給与	分離給与	分離給与	分離給与 稲WCS
放牧方式	公共牧場	—	水田放牧 (2ha)	水田放牧 (5ha)	—
飼料作物の 作付体系	混播主体	混播主体	混播主体	混播 トウモロコシ	イタリアン スーダン
飼料生産の 外部化	—	コントラクター	—	—	コントラクター
飼料作物 作付面積	18ha	28ha	3ha	12ha	23ha
分娩間隔	12.5ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12.5ヶ月	12ヶ月
初産月齢	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月
出荷月齢	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月
出荷時体重	260kg	260kg	260kg	260kg	260kg
10a 当たり 生産量 (飼料作物)	混播 4,100kg	混播 4,100kg	混播 4,300kg	混播 4,300kg トウモロコシ 5,400kg	イタリアン スーダン 7,200kg 7,500kg
経営内 飼料自給率	70%	60%	60%	70%	60%
粗飼料給与率	80%	80%	80%	80%	80%



群飼



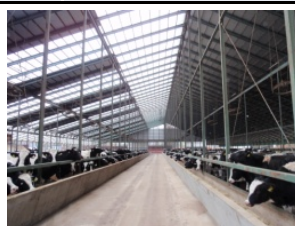
連動スタンション

近代的な肉用牛（肥育）経営の基本的指標②

	1	2	3
立地条件	土地条件の制約が大きい地域（主として都府県）		土地条件の制約が小さい地域（主として北海道）
土地条件	畑又は水田	畑又は水田	畑
経営形態	法人	家族	法人
肥育牛・育成牛頭数	肉専用種繁殖・肥育一貫 肥育牛 100頭 繁殖牛 50頭	肉専用種肥育 肥育牛 150頭	乳用種・交雑種 育成・肥育一貫 肥育牛 400頭 〔乳用種 320頭〕 〔交雑種 80頭〕 育成牛 170頭 〔乳用種 140頭〕 〔交雑種 30頭〕
飼養方式	牛房群飼、連動スタンション	牛房群飼	牛房群飼
給与方式	分離給与、稲WCS	分離給与、稲WCS	TMR
飼料作物の作付体系	トウモロコシ・イタリアン、稲WCS	稲WCS	トウモロコシ、混播牧草
飼料生産の外部化	コントラクター	コントラクター	—
飼料作物作付面積	9ha	5ha	49ha
肥育開始時月齢	6ヶ月齢	8ヶ月齢	乳用種 6ヶ月齢 交雑種 7ヶ月齢
分娩間隔	12.5ヶ月	—	—
初産月齢	23.5ヶ月	—	—
出荷時月齢	25ヶ月齢程度	27ヶ月齢程度	乳用種 20ヶ月齢程度 交雑種 23ヶ月齢程度
肥育期間	19ヶ月齢程度	19ヶ月齢程度	乳用種 14ヶ月齢程度 交雑種 16ヶ月齢程度
出荷時体重	710kg以上	710kg以上	乳用種 800kg以上 交雑種 780kg以上
1日当たり増体重	0.82以上	0.82以上	乳用種 1.25以上 交雑種 1.09以上
肉質等級	A3-4	A3-4	B2、B3
経営内飼料自給率	25%	10%	25%
10a当たり生産量 （飼料作物）	トウモロコシ 5,400kg イタリアン 6,300kg 稲WCS 3,500kg	稲WCS 3,500kg	トウモロコシ 6,000kg 混播牧草 4,100kg
粗飼料給与率	30%	20%	30%



（左）乳用種の育成牛



（右）乳用種の肥育牛

集送乳及び乳業の合理化に関する基本的な事項

◎生乳の計画的かつ安定的な供給及び集送乳等の合理化

- 今後も生産者団体による計画生産の円滑な実施を通じ、需要に応じた生産を推進。中長期的な需給変動にも対応し得る需給調整手法等について検討。
- 更なる県連、単協等の再編、指定生乳生産者団体による貯乳施設の再編整備等により、指定生乳生産者団体の機能を強化。

● 集送乳等経費の目標

	目標(H32年度)
集送乳等経費	現状の7～9割

◎乳業の合理化

- 酪農家の創意工夫を生かした多様な生産形態に対応した流通体制の構築に配慮しつつ、乳業工場の再編・合理化を計画的に推進。

● 牛乳・乳製品工場数の目標(1日当たり生乳処理量2t以上)

区分	現状(H20年度)	目標(H32年度)
乳製品工場数	42	現状の8～9割
飲用牛乳工場数	239	現状の8割程度
全体工場数	281	現状の8割程度

◎牛乳・乳製品の安全性の確保

- HACCP手法を導入した高度な衛生管理水準を備えた乳業工場の整備を推進。

● 飲用牛乳工場数に占めるHACCP対応工場数の目標(1日当たり生乳処理量2t以上の工場)

区分	現状(H20年度)	目標(H32年度)
飲用牛乳工場数に占めるHACCP対応工場数の割合	65%	9割以上

● 脱脂粉乳を製造する乳業工場数に占めるHACCP対応工場数の目標(1日当たり生乳処理量20t以上の工場)

区分	目標(H32年度)
脱脂粉乳を製造する乳業工場数に占めるHACCP対応工場数の割合	8割以上

肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項

◎肉用牛の流通の合理化

- 家畜市場は、肉用牛の公正な取引と適正な価格形成を確保するとともに、地域の肉用牛を支援する拠点施設として重要。
- 関係機関、団体の協力と支援のもと、地域の実情を踏まえつつ小規模な家畜市場の再編整備を推進。

● 家畜市場の取引頭数の目標

区分	現状 (H20年度)	目標 (H32年度)
年間取引頭数	3, 193頭	3, 500頭以上
開場日1日当たりの平均取引頭数	180頭	250頭以上

◎牛肉の流通の合理化

- 産地食肉センターは、食肉処理コストの低減、部分肉流通の拡大による流通コストの低減、国産食肉の安全性の向上に寄与。
- 地域の実情を踏まえつつ、都道府県、市町村、生産者団体や食肉流通団体の協力と支援のもと、再編整備を継続。

● 食肉処理施設の1日当たりの処理頭数及び稼働率の目標

区分	現状 (H20年度)	目標 (H32年度)
1日当たりの処理頭数	450頭	560頭以上
稼働率	64%	80%以上
(参考)1日当たりの処理能力	704頭	700頭以上

- 上記を補完するものとして、以下の取組を推進。
 - ・ 食肉卸売市場は、適正な価格形成機能を最大限発揮できるよう、集分荷機能や決済機能の強化等。
 - ・ 食肉の衛生・品質管理に関する高度な知識、技術を習得した食肉処理従事者の育成の推進。

全国における様々な取組事例 ①

(6次産業化の取組)

酪農経営と乳製品の加工・販売

- 飼養頭数
経産牛 約85頭
(ホルスタイン種)
- 飼料作付面積
約80ha
- 乳量
約7,500kg/頭
- 経営の特徴

放牧による酪農経営を実施するとともに、乳製品の加工・販売（ネット販売も実施）や飲食業を展開。



ティールームの様子



乳製品

(6次産業化の取組)

肉用牛経営と農家レストラン

- 飼養頭数
肉用牛繁殖 約150頭
肉用牛肥育 約20頭（自家産牛肥育）
- 飼料作付面積
延べ約20ha
(この他に稲わら14.5ha分を収集)
- 放牧地
約45ha
- 経営の特徴

肉用牛部門に加え、水稻や花き部門を取り入れた複合経営を展開。
肉用牛については、委託と畜後、レストランで消費者に提供。



農家レストラン



黒毛和牛ステーキ

(肉用牛経営におけるコスト低減・省力化)

肉用牛一貫経営とコスト低減・省力化

- 飼養頭数
肉用牛繁殖 約130頭（黒毛和種）
肉用牛肥育 約300頭（黒毛和種）
- 飼料作付面積
延べ約30ha（イタリアンライグラス）
(この他に稲わら30ha、麦わら20ha分を堆肥と交換して収集)
- 経営の特徴

省力化のためのほ乳ロボットを活用。
自給飼料のほか、人参粕やみかんの絞り粕も利用。



みかんの搾り粕



肥育牛

全国における様々な取組事例 ②

(放牧の取組)

牧野等を活用した周年放牧

- 放牧頭数
約220頭（黒毛和種、褐毛和種）
- 飼料作付面積
158ha
（この他に野草地 約100ha）
- 経営の特徴
周年放牧に加え、牧草・野草の収穫・調製・販売も実施。



放牧の様子

(自給飼料生産・利用の取組)

TMRセンターとコントラクターによる自給飼料生産

- 利用農家数
酪農家20戸（経産牛約970頭）
- 飼料作付面積
延べ約220ha
（とうもろこしの二期作体系）
- 飼料生産体系
堆肥散布（酪農家）→播種（TMRセンター）
→収穫（コントラクター）→調製・配合（TMRセンター）
- メリット
機械等の設備投資を抑制。
ほ場管理や飼料調製作業を軽減し、牛群管理に専念することが可能。



自走式飼料混合機



とうもろこしの作付

(畜産に対する理解促進と食育の取組)

酪農教育ファーム

- 飼養頭数
経産牛 約50頭
（ホルスタイン種、ジャージー種）
- 飼料作付面積
延べ約13.2ha
（とうもろこし、麦）
- 乳量
約9,400kg/頭
- 経営の特徴
酪農教育ファームとして、地域住民とのふれあい・体験活動を展開。
ソフトクリームやヨーグルトを販売。



繋ぎ牛舎



酪農教育ファームの様子

このパンフレットに関するお問い合わせ先

農林水産省生産局畜産部畜産企画課

TEL 03-3501-1083

FAX 03-3501-1386